

## セリのもとグロヒラタマルハキバガの発生について

### 1 発生の経緯

宮城県名取市のセリ産地において、十数年前からセリの茎葉部を加害する害虫の発生が確認されていたが、発生生態が不明で、成虫を得られなかったため、種を同定できずにいた。平成 22 年に宮城県農業・園芸総合研究所が現地ほ場から採集した幼虫を飼育し、羽化した成虫を（独）農業環境技術研究所の吉松慎一氏に同定を依頼したところ、平成 23 年にもとグロヒラタマルハキバガ *Depressaria petronoma* Meyrick と確認された。

本種は国内（岩手、大阪等）での発生の記録はあるが、採集例が少ないことから、寄主等生態が明らかではなかった。今回、本種の寄主植物が初めて判明し、セリに加害することが確認された。

### 2 発生状況

- (1) 発生作物 セリ
- (2) 害虫名 モトグロヒラタマルハキバガ  
*Depressaria petronoma* Meyrick

### 3 被害と生態

- (1) セリへの被害は、幼虫が茎葉内に食入することで、上部の茎葉がしおれて枯れ上がる。
- (2) 生産現場からの情報によると、被害は主に親株育成ほ場（種田）の 6～8 月に多く、移植後の本ほでも 9 月以降、発生がみられることがある。
- (3) 県内の他のセリ産地でも同様の被害がみられることから、県内の他地域でも発生していると考えられる。
- (4) 宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部が、現地ほ場から採集した本種を飼育したところ、成虫羽化時期から、本種は越冬世代を含めて年 4 世代以上発生すると推測される。
- (5) 卵は白色で平たい楕円形で、葉や茎上に単独または数個まとめて産卵する。
- (6) 卵から孵化すると、葉や茎に直径 1 mm 程度の穴を開けて食入する（図 1）。茎葉内を食い進み、羽化まで外に出ないが、餌条件が悪い場合は外に脱出し、他の餌に食入する（図 2）。幼虫は 5 齢を経過して茎葉内で蛹化するが、その際、茎の内部を円形に食害し、上部をしおれさせる（図 3）。



図1 セリ茎部の食入痕



図2 セリ茎内に食入した幼虫



図3 食入により茎上部がしおれたセリ



図4 モトグロヒラタマルハキバガの成虫

( \* 図1 ~ 4 : 宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部撮影 )

## 4 防除対策

- ( 1 ) 現在のところ，本種への防除薬剤は登録されていない。
- ( 2 ) 被害が確認された場合は早期に被害株を抜き取り，ほ場外に持ち出し適切に処分する。

この害虫に関するお問い合わせは下記まで

### 宮城県病害虫防除所予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号(宮城県仙台合同庁舎内)

TEL 022-275-8982, FAX 022-276-0429

<http://www.pref.miyagi.jp/byogai/>

### 宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地

TEL 022-383-8125, FAX 022-383-9907

[http://www.pref.miyagi.jp/res\\_center/](http://www.pref.miyagi.jp/res_center/)